ひまわり

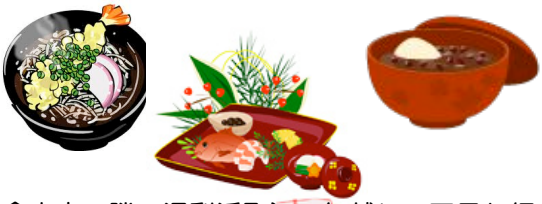
岡村一心堂病院　看護部　2012.1 発行　No.10

☆看護部長より☆

If I　were　patient『もし私が患者だったら・・・』紙屋克子さん「私の看護ノート」より　『写真』

突然の交通事故で意識不明となり死が直前にせまっている 45 歳の患者さんの妻が、急に「家に帰ってきたい」との申出があり、病院側は、一度は「こんな状況で」と拒んだが、妻の様子に「よほど大事なことがあるのだろう」と許可を出したました。もどって来られたとき持っていたのは、患者さんの笑っている写真でした。最初は、こんなものを持ってくるためにと愕然としました。しかし写真をみながら元気であった時のことを訪室のたびにお話をされました。そうしているうちに「**彼女は、死にゆく 45 歳の男性を看取ってほしかったのではなく、夫、溝口正夫（仮名）の臨終を看取ってほしかったに違いない。**」ことに気づきました。若かった私は、もし夫人が写真をもってくるために帰宅したいと申出ていたならば、断っていたに違いない。このことから「**人は、たとえどのような状況にあろうとも、一人の人間として一個の人格として扱われることを望む**」と看護の原則的な事実を学んだ。

私たちが患者さんに出会うときは、寝たきりであったり、認知があったり、言語障害があったりと、病気になった姿です。しかし、患者さんには今まで生きてきた人生があることを忘れず接してほしいのです。その気持ちをもって接していれば、患者さんや家族へ「優しさ、思いやり」は伝わると思います。



リレーエッセー　　看護部　山田　浜恵

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

皆さんはどのように年越しをされましたか。我が家（夫の実家は鳥取県の倉吉市の隣の湯梨浜町）の年越し、正月を紹介します。①年越しそばを除夜の鐘を聞きながら食べる～食べる人はいいけど、作る人は紅白歌合戦の終盤がみれないし、寝る前に食べるのに胃がもたれないのだろうか。75 歳の義父は翌朝餅を３個食べるから大丈夫のよう。②正月三が日の朝はお雑煮という名の餅入りぜんざいを食べる～餅嫌いで岡山で醤油仕立てに慣れた私には３日間はちょっとつらい。しかしそれしか知らない我が子は毎年楽しみにしています。習慣ってすごいなあと改めて感じたものです。

次回、外来さん、バトンタッチです！！！

.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。O.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o

わたしのすきなコト(*^_^*)

青い空を見上げる

今までの辛いコト、悲しいコト…

すべて　洗い流すかのように…

明日も　きっともっと笑顔で　“ありがとう～”って

誰かにやさしくなれるよね(*^^)v

私は　今日も　空を見上げます。。。

誰かのために…

わたしのために…

小さなコトでも

“ありがとう～”(^^♪

きっと誰かが傍で　見守ってくれています。。。

ペンネーム　ひまわりさんより

。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o○*.。o